

近況報告

渡辺規夫

1. 大道仮説実験講座 〈びりりん〉 上田

3月5日(日)上田市中央公民館第一会議室

参加者22人、大盛り上がりでした。びりりんは次の冬にもやりたいです。



サンダーハウスの実験。避雷針がないと屋根が吹っ飛びました。

[感想文]

楽しく知る

楽知んは、楽しく知るだったんですね。(笑)。見えない世界を楽しく知ることができて、本当に楽しかったです。子どもと一緒にこれからも楽知んしたいです。

目がキラキラ

子どものキラキラ輝く目を見られてうれしかったです。私も楽しかったです。手を挙げて前に出ればよかったナ。ありがとうございました。

楽しくて仕方がない

子どもの頃には楽しく感じませんでした。今は楽しくて仕方がありません。自分の子どもたちには沢山興味を持ってもらいたいと思います。また参加できるのを楽しみにしています。

2. 親子孫講座磁石検討会 成田

3月27日～28日

授業書の案が提示。分子磁石説をゴム磁石で示す方法の研究、コペンハーゲン研究所がこうであったろうと思われる、熱気と自由な雰囲気でした。これも束縛のしかたがよかったので自由になれたということなのでしょう。

3. もっとぶんしっし講座 名古屋 ころりんハウス

4月8日～9日

原子論がこれほどすごい理論だとは思わなかった。ぶんしっし講座をやることに決定。5月6日のころりんハウスでのぶんしっし講座に遠藤さんと参加します。5月14日に新座のぶんしっし講座にも参加。

4. まちかど科学クラブ

4月から2名が参加。《電気の流れ》の第3部



4月でも静電気の実験はできました。

第3部は、静電誘導とアースについての内容です。

高校生もなかなか理解できないところです。授業書はまだ終わらず、続きは5月になります。

新たに参加の星さん親子は、これまで大道仮説や親子孫講座に参加したそうです。

5. 板倉さんの論文を発見

「改算記の弾道表とその起源の問題」1962年9月15日 蘭学資料研究会にて発表。PDF化しました。日本の改算記という1659年の砲術の本に、弾道が放物線になることが載っている。板倉さんが蘭学資料研究会で発表したらしい。仮説実験授業の提唱の前年である。『科学と社会』(季節社)189ページからの「日本の砲術と科学の芽ばえ」という論文の一部とかなり重なっている。ほしい人はPDFで送ります。

6. 力と運動の原理

館さんのつくった『板倉聖宣と発想法講座』01年6月～03年3月の139ページに板倉さんが「授業書《力と運動の原理》が完成しました。」と言っています。この授業書を入手しようとして、いろいろな人に問い合わせました。

館さん かすかに記憶にある。探してみる。その後連絡なし。

竹内三郎さん

次のようなメールをもらいました。

「2023.4.16. 竹内三郎

ご返事がおそくなってすみません。

——《力と運動の原理》という授業書が2002年の11月に、板倉さんが「できました！」と言われていました。——

冷静に思い出してみないといけないのですが、いつ冷静になるのかわからない状況です。

ただ、《力と運動の原理》ないしは「新しい授業書」あるいは「第三期の新しい原稿」としてそれらしいものを頂いたこと、見せていただいたは、ありません（明確）。

佐藤さんのは「社会の力学」を受け継ぐもので、ちがうでしょう。

「それらしい原稿の断片」も、発見していません。そのころからのデータは、平野孝典さんがかなりパソコンの中もさがしているのですが、「あるはず」のものも、どこにいったかわからない状態です。昔と違って、そのころは紙に印刷してないのです。

私は、喘息発作の前の「かなりまとまった井原西鶴の研究」があるはずだと期待しているのですが、まったく見当たらないのです。

《力と運動の原理》も「西鶴研究」も、見つかったら、大発見だと思います。しかし、諦めずに、探し続けます。群馬の森下さんが、科学の碑会館の書庫をかなり徹底して搜索しているし、ご自宅は重弘さんが執念を持って、調査しています。だから、「なにか」は、まだ見つかる可能性は否定できません。

——ということで、お役にたてなくて残念です。

体力がおとろえているのは私も同じですが、なんとか毎日5000歩くらいは歩こうとお思っています。山靴をひっぱりだしてはみましたが、これを必要とするような山には行けそうにありません。

でも、「おれは仮説実験授業を知っているのだから……」と思うと、いまだに、やりたいことが見付き、元気が出ます。

しぶとく生きましょう！」

多久和さんに問い合わせると「持っている」と言って送ってくれました。

《力と運動の原理》授業書案 2002.3版

となっていて、見たことがあるような感じです。館さんの本には第5部までであると書かれていますが、この授業書案は3部までです。また館さんの本の中で授業書の一部を読み上げていますが、多久和さんから送ってもらった授業書案にはそのような文面がありません。ということで、館さんの本に出ている「完成しました」というのとは別の授業書案だと思います。